

発寒ひかり
保育園だより

2021年
5月号

巻頭言

先日、子どもたちと分別用のごみ袋を持って、道のごみ拾いをしながら散歩しました。

軍手をつけて出発すると、すぐにいろいろなごみを発見し、「あった！これなにごみ？」と分別にも興味津々。一つ見つけると勢いづいたようにどんどん発見し、ごみ袋に入っていきます。「つぎはどこいくの？」と、もつと拾いたい意欲が出てきたJくん。小学校の方へ行くことを提案してみると、「うん！しようがくせいもきれいにしたいよね！（出るとき、綺麗だと気持ちいいよね）」と自分たちのことだけではなく、他の人を思いやる姿に心が温まりました。

また、通行人の方に「元気だね。偉いね」と嬉しい言葉をかけて頂き、「なんかほめられたね」とニコニコ笑顔の子どもたち。ごみ拾いを通して自分たちが通る道が綺麗になることを実感し、さらに周りの人に感謝される充実感も体験できたようです。この日の子どもたちの瞳は、いつも以上にキラキラと輝いていました。

この散歩の前に『プラスチックのうみ』という絵本を読みました。プラスチックごみは、海洋汚染だけではなく、気候変動や健康にも悪影響を与えると懸念されています。

子どもたちは、「どうろのごみをひろわないと、かぜでうみにとんでいって、さかなたちがしんじやうんだよね」と、ごみが生き物たちに及ぼす影響をしっかりと理解しています。実は、拾ったごみで一番多かったのは、プラスチックごみだったのです。

これからの子どもたちの未来のために、今からできることを子どもたちと一緒に取り組み、地球を大切にすることを育てていきたいと思います。

れもんファミリー・ひよこ組担任 鈴木 めぐみ